

Business Report



ONO'S VIEW

第66期 第2四半期のご報告

平成25年4月1日～平成25年9月30日

小野薬品工業株式会社
証券コード 4528

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第66期第2四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)につきましては、積極的な学術情報提供活動を進め主要新製品の売上増加により微増収となりましたが、開発パイプラインの拡充に伴う研究開発費の増加などにより、減益となりました。

現在、医薬品業界においては、新薬創製成功率の低下や世界的な研究開発コストの増大に加え、医療費抑制政策の進展など、厳しい環境が続いています。このような事業環境のなか、当社は、新薬開発型医薬品企業として持続的な発展を実現するために、開発パイプラインの拡充、海外展開の推進に取り組むとともに、企業基盤の強化に努めています。

なお、当社は、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により、比較可能性を高め、ステークホルダーの皆さまの利便性向上を図るために、平成26年3月期決算から国際会計基準(IFRS)を導入します。詳細については、中ページをご覧ください。

開発パイプラインの拡充

持続的成長のためには、開発パイプラインを拡充し、継続的に新薬を市場に送り出していくことが不可欠です。世界最先端の技術を活用した、独創的かつ画期的な医薬品創製を加速する取り組みを進めるとともに、引き続き新薬候補化合物の導入活動にも注力し、今後も継続的な新薬上市に繋がる開発パイプラインの拡充に努めます。また、臨床試験では有効性と安全性を早期に確認し、新薬開発のスピードアップにも努めていきます。

海外展開の推進

自社創製の新薬を世界中でご使用いただけるよう、海外における臨床開発を推進するとともに、海外提携企業への導出を通じ、自社創製化合物の海外での上市を目指しグローバルな事業展開を推進します。また、海外展開を見据えた人材育成に取り組んでいきます。

企業基盤の強化

グローバルレベルでの競争力向上のため、人材の育成と活性化に努めます。また、多様性の向上や社内外の連携強化により、さまざまな環境変化への対応とイノベーションの実現を図ります。さらにCSR活動の一層の推進に取り組めます。

わたしたちは、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、積極的な努力を続けていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

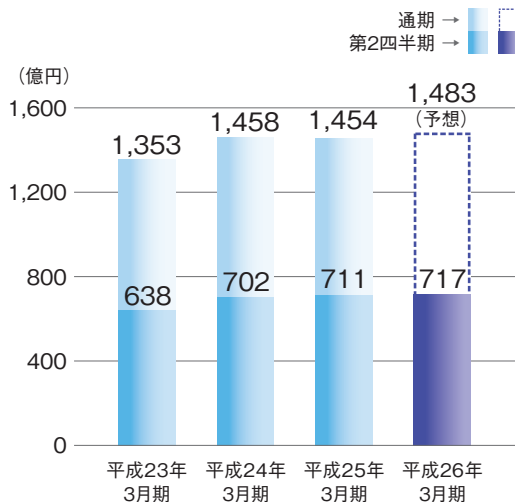


1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立されたモニュメント。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**

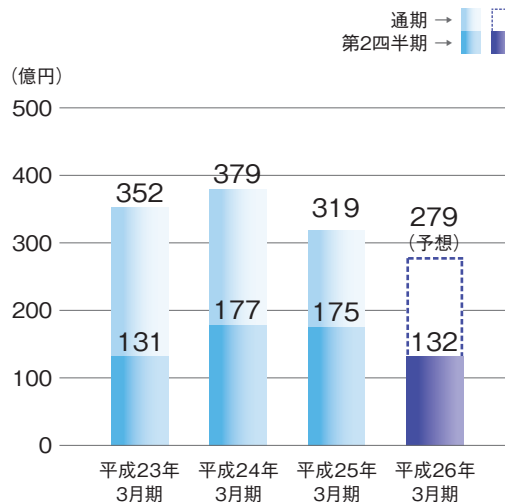
売上高

717億円 前年同期比 **0.8%増**



営業利益

132億円 前年同期比 **24.8%減**



長期収載品の売上が減少するも、主要新製品の売上が増加し、増収

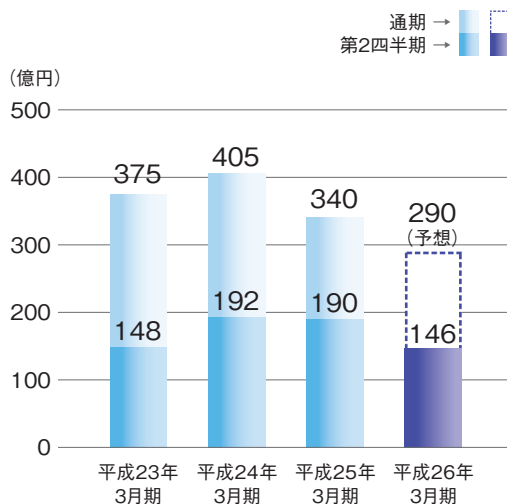
長期収載品は後発医薬品使用促進策の影響などにより売上が減少しましたが、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」や骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」などの主要新製品の売上が増加したことにより、当第2四半期の売上高は前年同期比6億円(0.8%)増の717億円となりました。

販売費及び一般管理費の増加により、減益

開発パイプラインの拡充に伴うライセンス費用の増加や円安の影響により、研究開発費が増加しました。また、コンピュータ関連費用などによって研究開発費を除く販売費及び一般管理費も増えたことにより、当第2四半期の営業利益は前年同期比43億円(24.8%)減の132億円となりました。

経常利益

146億円 前年同期比 **23.0%減**

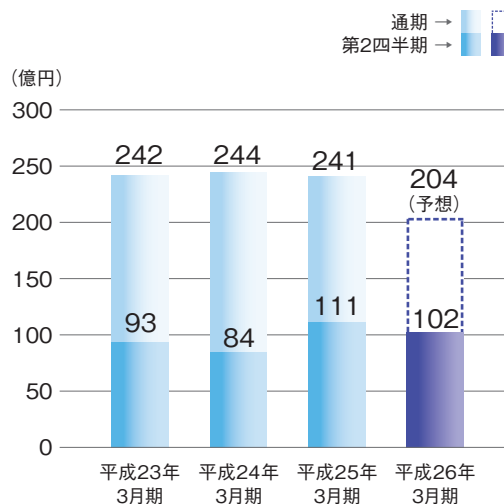


営業外収支は前年同期並みとなるも 営業減益を補えず、減益

営業外収益、営業外費用がともに2億円増加し、営業外収支が前年同期とほぼ同額の14億円となりましたが、当第2四半期の経常利益は前年同期比44億円(23.0%)減の146億円となりました。

四半期純利益

102億円 前年同期比 **8.3%減**



特別損益が改善するとともに、 税負担減少するも、減益

投資有価証券評価損による特別損失が減少しました。また、試験研究費の税額控除拡大などにより法人税等の負担も減少しましたが、当第2四半期の四半期純利益は、前年同期比9億円(8.3%)減の102億円となりました。

営業の概況（連結決算）

財政状態

	前期末 平成25年3月31日現在	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	増減
総資産（億円）	4,556	4,608	+ 52
純資産（億円）	4,233	4,286	+ 53
自己資本比率（%）	92.2	92.3	+ 0.1
1株当たり純資産（円）	3,961.55	4,011.23	+ 49.68

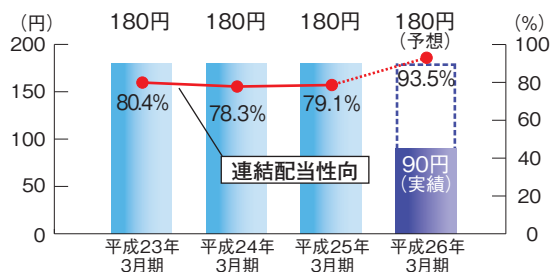
（単位：億円）

キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間	増減
現金及び現金同等物期首残高	851	891	
営業活動によるキャッシュ・フロー	98	129	+ 31
投資活動によるキャッシュ・フロー	48	94	+ 46
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 93	△ 96	△ 3
換算差額	△ 1	0	+ 1
増減	52	127	
現金及び現金同等物の四半期末残高	903	1,019	

中間配当金について

〈過去3年の年間配当実績と当期予想〉



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき90円とさせていただきます。なお、当期の期末配当金につきましても、1株につき90円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき180円を予定しています。

売上高

1,483億円 前期比 **2.0%増**

引き続き後発医薬品使用促進策の普及・浸透によるマイナス影響は想定されるものの、「グラクティブ錠」「リカルボン錠」「リバスタッチパッチ」など主要新製品の売上伸長を見込んでいます。また8月に新発売しました「オレンシア皮下注」も売上に寄与することから、通期の売上高は前期比29億円(2.0%)増の1,483億円を予想しています。

営業利益

279億円 前期比 **12.6%減**

主要新製品(導入品)の売上伸長に伴う売上原価の増加と、開発ステージの進展やライセンス費用の増加、円安の影響などによる研究開発費の増加が見込まれます。また、その他の販売費及び一般管理費もコンピュータ関連費用などにより増加する見込みであり、通期の営業利益は前期比40億円(12.6%)減の279億円を予想しています。

経常利益

290億円 前期比 **14.6%減**

営業外収益の減少と営業外費用の増加が見込まれることから、通期の経常利益は前期比50億円(14.6%)減の290億円を予想しています。

当期純利益

204億円 前期比 **15.4%減**

税金費用は減少するものの、平成25年3月期に計上した投資有価証券売却益を今期は見込んでいないことなどにより、通期の当期純利益は前期比37億円(15.4%)減の204億円を予想しています。

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科目	期別 前期 平成25年 3月31日現在	当第2四半期 平成25年 9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	214,741	217,156
現金及び預金	24,261	26,775
受取手形及び売掛金	37,822	36,914
有価証券	105,877	107,456
たな卸資産	23,409	25,130
繰延税金資産	17,152	17,135
その他	6,224	3,748
貸倒引当金	△ 5	△ 5
固定資産	240,830	243,649
有形固定資産	49,630	49,984
建物及び構築物	21,780	21,485
土地	23,479	23,483
その他	4,370	5,015
無形固定資産	1,383	1,877
投資その他の資産	189,817	191,787
投資有価証券	180,200	182,338
繰延税金資産	34	33
その他	9,590	9,424
貸倒引当金	△ 8	△ 8
資産合計	455,572	460,806

科目	期別 前期 平成25年 3月31日現在	当第2四半期 平成25年 9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	25,786	23,782
支払手形及び買掛金	4,243	3,925
1年以内に返済予定の長期借入金	101	101
未払法人税等	5,606	4,185
引当金	5,838	5,752
その他	9,996	9,817
固定負債	6,495	8,400
長期借入金	134	83
長期未払金	72	54
引当金	1,107	1,231
繰延税金負債	2,500	4,152
再評価に係る繰延税金負債	2,569	2,569
その他	109	308
負債合計	32,281	32,182
(純資産の部)		
株主資本	406,048	406,654
資本金	17,358	17,358
資本剰余金	17,079	17,079
利益剰余金	430,824	431,441
自己株式	△ 59,214	△ 59,224
その他の包括利益累計額	13,940	18,595
その他有価証券評価差額金	22,451	26,944
繰延ヘッジ損益	—	14
土地再評価差額金	△ 8,577	△ 8,577
為替換算調整勘定	67	213
少数株主持分	3,301	3,373
純資産合計	423,290	428,623
負債純資産合計	455,572	460,806

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	期別	前第2四半期累計期間 自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	当第2四半期累計期間 自平成25年4月1日 至平成25年9月30日
売上高		71,111	71,702
売上原価		16,282	16,416
売上総利益		54,829	55,286
販売費及び一般管理費		37,322	42,130
(研究開発費)		(20,837)	(24,603)
営業利益		17,506	13,156
営業外収益		1,724	1,932
営業外費用		278	490
経常利益		18,952	14,598
特別利益		127	—
特別損失		1,605	104
税金等調整前四半期純利益		17,474	14,493
法人税、住民税及び事業税		6,307	4,255
少数株主損益調整前四半期純利益		11,166	10,238
少数株主利益		94	80
四半期純利益		11,072	10,157

※1株当たり四半期純利益 104円44銭 95円82銭

連結株主資本等変動計算書の要旨

(単位:百万円)

科目	当期首	変動額	当第2四半期
	平成25年 4月1日現在		平成25年 9月30日現在
資本金	17,358	—	17,358
資本剰余金	17,079	—	17,079
利益剰余金(注)	430,824	616	431,441
自己株式	△ 59,214	△ 9	△ 59,224
株主資本合計	406,048	606	406,654
その他有価証券評価差額金	22,451	4,493	26,944
繰延ヘッジ損益	—	14	14
土地再評価差額金	△ 8,577	—	△ 8,577
為替換算調整勘定	67	146	213
その他の包括利益累計額合計	13,940	4,654	18,595
少数株主持分	3,301	71	3,373
純資産合計	423,290	5,332	428,623

(注) 利益剰余金の変動要因

四半期純利益 10,157百万円

剰余金の配当 △ 9,541百万円

主な製品の売上高の状況

製品名	当第2四半期 売上高(実績) (億円)	対前年同期 増減率 (%)	平成24年度 売上高(実績) (億円)	平成25年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率 (%)
グラクティブ錠	182	+ 7.4%	348	400	+ 15.1%
オバルモン錠	167	△ 3.8%	339	310	△ 8.6%
オノンカプセル	61	△ 14.5%	161	125	△ 22.6%
リカルボン錠	51	+ 55.3%	77	105	+ 37.2%
イメンド／プロイメンド	42	+ 7.2%	79	95	+ 19.9%
フオイパン錠	42	△ 9.0%	88	80	△ 8.8%
キネダック錠	38	△ 17.5%	87	80	△ 7.8%
ステーブラ錠	31	△ 5.6%	64	70	+ 8.6%
オノンドライシロップ	30	△ 3.9%	73	70	△ 4.5%
リバスタッチパッチ	29	+ 71.2%	39	65	+ 66.6%
注射用オノアクト	19	+ 7.9%	37	45	+ 21.9%
注射用エラスポール	17	△ 11.1%	39	35	△ 9.8%
オレンシア皮下注	1	(平成25年8月発売)	—	12	—

関節リウマチ治療剤「オレンシア®皮下注125mg シリンジ1mL」新発売



平成25年8月に、関節リウマチ治療剤「オレンシア®皮下注125mgシリンジ1mL」を新発売しました。本剤は、T細胞の活性化を抑制することにより、関節リウマチにおける炎症発生に関与するサイトカインの産生を抑え、関節の炎症を抑える生物学的製剤です。本剤は皮下注製剤であり、医師の判断のもとで、患者さんが自ら皮下注射を行うことも可能です。

すでに販売されている点滴静注用製剤に加えて皮下注製剤という新たな剤型が加わることで、患者さんのライフスタイルにあわせた治療が可能になるなど、患者さんの治療により一層の貢献ができるものと考えています。

真に患者さんのためになる 医薬品を開発して社会に貢献する



わたしたちは「真に患者さんのためになる医薬品を開発して社会に貢献する」ことを研究開発理念とし、これまで克服されていない病気や、いまだ患者さんの治療満足度が低く、医療ニーズの高い疾患領域に挑戦し、独創的かつ画期的な医薬品の創製に向けて努力を積み重ねています。

現在開発パイプラインには、抗体医薬品を含む抗がん剤、がん悪液質の治療薬など、がん治療およびその支持療法の領域の新薬候補化合物をはじめ、多発性硬化症や慢性心不全の治療薬候補などがあり、早期の上市に向けて開発を進めています。なかでも、がん治療およびその支持療法の領域は医療現

場のニーズが高いことから、当該領域を戦略分野と位置付け、患者さんの包括的薬物治療への貢献を目指しています。

創薬の方針としては、特定の疾患を対象とするのではなく、脂質や酵素阻害などを重点領域と定め、各種標的に対する作用を持つ化合物をライブラリーとして蓄積し、そのなかから疾患や治療に結びつく薬剤を探し出す「化合物オリエント」という創薬手法で独創的な新薬の創製を行っています。また、疾患や治療に関連した化合物をより早く高い精度で探し出すことができる技術を導入するとともに、世界最先端の知見や技術を有する研究機関や大学、ベンチャー企業などとの提携を機動的に行い、創薬研究の効率を高め、新薬創製の成功確率を向上させます。

今後も国内外での世界最先端技術を活用した独創的かつ画期的な医薬品の創製を目指すとともに、ライセンス活動による有望な化合物の導入などにより、質の高い新薬候補化合物の拡充にも努めるなど、研究開発活動の一層の強化に取り組みます。

開発品の主な進捗状況(国内)

(平成25年11月5日現在)

製品名 (開発コード)	予定効能	薬理作用等	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
グラクティブ錠 (ONO-5435)	2型糖尿病(速効型インスリン 分泌促進薬との併用療法)	DPP-4阻害作用	▶	▶	▶	▶
オバルモン錠 (OP-1206- α -CD)	閉塞性血栓血管炎、腰部脊柱管 狭窄症(安定性改善製剤)	血管拡張作用	▶	▶	▶	▶
注射用オノアクト50 (ONO-1101)	心機能低下例における 頻脈性不整脈	β_1 遮断作用(短時間作用型)	▶	▶	▶	▶
プロイメンド点滴静注用 (ONO-7847)	抗悪性腫瘍剤投与に伴う 悪心・嘔吐(小児)	ニューロキニン1受容体拮抗作用	▶	▶	▶	▶
リバスタッチパッチ (ONO-2540)	アルツハイマー型認知症 (用法変更)	コリンエステラーゼ阻害作用	▶	▶	▶	▶
ONO-4538	腎細胞がん	完全ヒト型抗PD-1抗体	▶	▶	▶	▶
オレンシア点滴静注用 (ONO-4164IV)	若年性特発性関節炎	T細胞活性化抑制作用	▶	▶	▶	▶
オレンシア点滴静注用 (ONO-4164IV)	ループス腎炎	T細胞活性化抑制作用	▶	▶	▶	▶
ONO-2745	全身麻酔	GABA _A 受容体作動作用 (短時間作用型)	▶	▶	▶	▶
ONO-7165	非小細胞肺がん	腫瘍抗原MUC-1由来ペプチドワクチン	▶	▶	▶	▶
ONO-4641	多発性硬化症	S1P受容体作動作用	▶	▶	▶	▶
ONO-3849	オピオイド鎮痛薬の使用に伴う 難治性便秘	μ オピオイド受容体拮抗作用	▶	▶	▶	▶
ONO-7643	がん悪液質	グレリン様作用	▶	▶	▶	▶
ONO-4538	悪性黒色腫	完全ヒト型抗PD-1抗体	▶	▶	▶	▶
ONO-4538	非小細胞肺がん	完全ヒト型抗PD-1抗体	▶	▶	▶	▶
ONO-7057	多発性骨髄腫	プロテアソーム阻害作用	▶	▶	▶	▶
ONO-5163	二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体作動作用	▶	▶	▶	▶
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用	▶	▶	▶	▶
ONO-7056	固形がん	Rasシグナル阻害作用	▶	▶	▶	▶
ONO-7268MX1	肝細胞がん	ペプチドワクチン	▶	▶	▶	▶
ONO-1162	慢性心不全	Ifチャンネル阻害作用	▶	▶	▶	▶
ONO-2160/CD	パーキンソン病	レボドパプロドラッグ	▶	▶	▶	▶

開発品の主な進捗状況(国外)

(平成25年11月5日現在)

製品名 (開発コード)	予定効能	薬理作用等	開発ステージ			
			PI	PII	PIII	申請
ONO-4538	腎細胞がん	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4538	非小細胞肺がん	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4538	悪性黒色腫	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4641	多発性硬化症	S1P受容体作動作用				
ONO-6950	気管支喘息	ロイコトリエン受容体拮抗作用				
ONO-4053	アレルギー性鼻炎	プロスタグランジンD2受容体拮抗作用				
ONO-2952	過敏性腸症候群	TSP0 (トランスロケータープロテイン) 拮抗作用				
ONO-4538	固形がん(トリプルネガティブ乳がん、胃がん、膵臓がん、小細胞肺がん)	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4538	血液がん	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4538	肝細胞がん	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-4538	C型肝炎	完全ヒト型抗PD-1抗体				
ONO-7746	血小板減少症	トロンボポエチン受容体作動作用				
ONO-9054	緑内障・高眼圧症	プロスタグランジン受容体 (FP/EP3) 作動作用				
ONO-4059	B細胞リンパ腫	Bruton's tyrosine kinase (Btk) 阻害作用				
ONO-8055	低活動膀胱	プロスタグランジン受容体 (EP2/EP3) 作動作用				
ONO-8539	胃食道逆流症	プロスタグランジン受容体 (EP1) 拮抗作用				
ONO-1266	門脈圧亢進症	S1P受容体拮抗作用				
ONO-4232	急性心不全	プロスタグランジン受容体 (EP4) 作動作用				

は前回ご報告(平成25年5月13日)時点からの進捗

Valeant社とのライセンス契約締結のお知らせ

平成25年10月、Valeant Pharmaceuticals International Inc.の関係会社であるValeant Pharmaceuticals North America LLCより、同社が米国において褐色細胞腫を対象に製造・販売している「メチロシン(一般名)」に関して、日本における独占的な開発販売権を取得しました。

褐色細胞腫患者では、過剰に産生されたカテコールアミンにより、高血圧をはじめ、頻脈、不整脈、動悸、蒼白、頭痛などの症状が認められますが、メチロシンはカテコールアミンの産生を抑制することで、高血圧などの循環器症状を軽減する薬剤です。

メチロシンは、1979年に米国で承認・上市されており、日本では未承認薬・適応外薬の開発促進のために厚生労働省の主催で設置された「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において開発企業の募集が行われた化合物です。

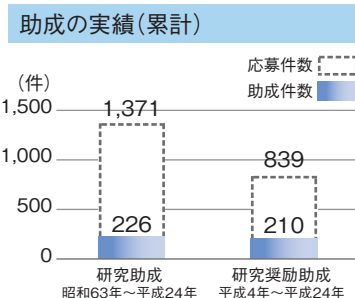
今回の契約締結により、メチロシンを開発・販売することで、褐色細胞腫の治療に貢献できるものと考えています。

小野医学研究財団設立25周年

昭和63年に設立した「小野医学研究財団」が、今年25周年を迎えました。

当財団は、医療現場に密着した、脂質代謝異常に伴う疾患の病態生理、メカニズムの解明および治療の研究であり今後の医療に貢献し国民の福祉の向上に寄与すると認められるものに対して、研究助成および研究奨励助成を行ってきました。25年間の実績は、研究助成226件、研究奨励助成(満40歳以下の研究者対象)210件におよんでいます。

脂質代謝異常は、成人病のみならず多くの疾患と深く関係しており、脂質代謝異常に伴う疾患の研究を通しての創造性の高い治療法の開発は、患者さんに大きな恩恵をもたらすことが期待できます。今後とも、当社は小野医学研究財団を通して脂質研究進展のための助成活動を続け、医療の発展や健康と福祉の向上に寄与したいと考えています。



コーポレート・ガバナンスの強化について

当社は、企業価値の向上を図るために、法令遵守はもとより、経営における透明性を高め、経営管理機能を強化することが重要な課題であると考えています。

そのため、当社では監査役(会)設置型の経営機構を採用し、取締役会および監査役会の機能強化を中心としたコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

取締役会については、本年6月に、経営の健全性、業務執行の的確性の維持および向上を目的に、管理会計・原価計算を専門とする大学教授と、政治・経済・社会分野に精通したシンクタンクの研究主幹という、企業経営について幅広い知識と高い見識をもった方々を社外取締役として招聘し、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化を図りました。

監査役会については、社外監査役2名を含む4名の監査役が、それぞれ取締役会および重要な会議に出席するほか、取締役から事業の報告を受け、聴取するなど、取締役の職務執行の監査を行っています。なお、社外監査役は、弁護士および公認会計士がそれぞれ1名就任し、客観的かつ専門的な視点から監査を行っています。



(左から)手塚 荒木 西村 間石 藤吉 粟田 佐野 相良 川淵 加登 小野 栗原 福島

国際会計基準(IFRS)導入について

平成26年3月期決算から国際会計基準(IFRS)を導入

当社グループは、平成26年3月期決算から、従来の日本基準に替えて国際会計基準(IFRS)を任意適用します。本特集ではIFRSの特徴や日本基準との違いについてご説明します。

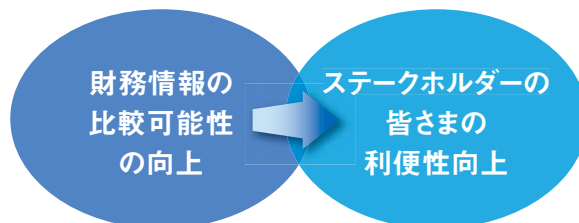
IFRSとは?

資本市場のグローバル化に伴い会計基準の国際的統一が模索されてきた中で、国際会計基準審議会によって設定された会計基準です。「International Financial Reporting Standards」の頭文字を取って「IFRS」と呼ばれており、すでに世界120カ国以上で適用されています。

IFRS導入の目的

当社グループでは、日本のみならず、米国、欧州、アジアなど、グローバルに研究開発活動やライセンス活動などの事業展開を推進しています。また、当社の株主構成のうち、外国人投資家が占める割合は高い水準が続いており、平成25年9月末現在では約3割です。

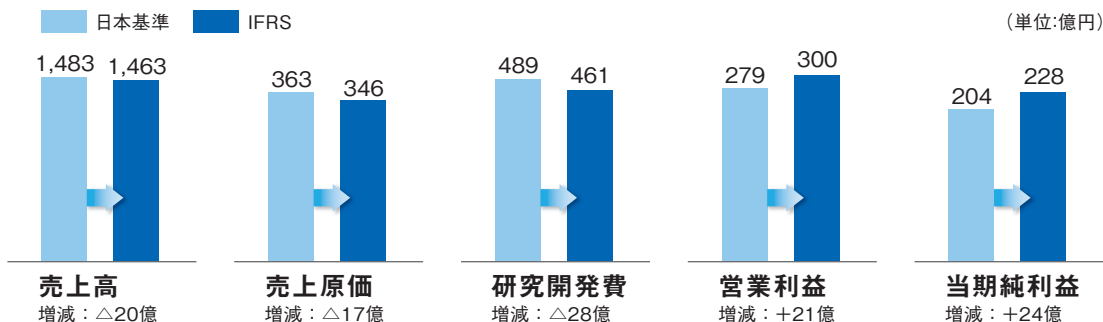
このような状況下で、国際的なスタンダードに基づく財務情報の開示により比較可能性を向上させ、株主さまや投資家などステークホルダーの皆さまの利便性向上を図ることを目的として、IFRSを任意適用することとしました。



開示スケジュール



当社の損益計算書でみる主な変更ポイント



※日本基準とIFRSの違いをご理解いただくための情報として試算していますが、今後IFRS導入作業や監査の過程で数値が変動する場合があります。なお、試算の数字は平成25年5月13日公表の、平成26年3月期連結業績予想に基づくものです。

1 売上高・売上原価（一部の取引について）

[日本基準] 総額表示 → [IFRS] 純額表示

2 減価償却費

[日本基準] 定率基準 → [IFRS] 定額基準

3 契約一時金・開発マイルストーン

[日本基準] 発生時に研究開発費として計上

[IFRS] 発生時に無形固定資産とし、製品発売時から特許満了まで、売上原価として償却

4 退職給付費用（数理差異）

[日本基準] 発生時の翌期に売上原価や販管費として一括認識

[IFRS] 発生時に貸借対照表のその他の包括利益として認識

5 投資有価証券売却損益・投資有価証券評価損

[日本基準] 発生時に特別利益、特別損失として計上

[IFRS] 売却損益、評価損は発生時に、その他の包括利益として認識

■ 会社概要

社名	小野薬品工業株式会社
英文社名	ONO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
創業	享保2年(1717年)
設立	昭和22年(1947年)
資本金	17,358,275,607円
事業内容	医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売
従業員数	2,911名(連結) 2,639名(単体)

■ 主要な事業所

本社	〒541-8564 大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔 登記簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号 〕
支店	札幌支店、仙台支店、東京第一支店、 東京第二支店、北関東支店、甲信越支店、 横浜支店、名古屋支店、京都支店、大阪支店、 神戸支店、高松支店、広島支店、福岡支店 (その他全国の主要都市に営業所等を設けています)
工場	城東工場(大阪府)、フジヤマ工場(静岡県)
研究所	水無瀬研究所(大阪府)、福井研究所、 筑波研究所(茨城県)
海外子会社	オノ・ファーマ・ユーエスエー インク(米国ニュージャージー州) オノ・ファーマ・ユーカー・リミテッド(英国ロンドン)

■ 取締役

代表取締役 取締役社長	相良 暁
取締役 副社長執行役員	栗田 浩
取締役 専務執行役員	佐野 敬
取締役 常務執行役員	川瀬 和一十
取締役 常務執行役員	藤吉 信治
取締役 執行役員	小野 功雄
取締役 執行役員	福島 大吉
社外 取締役	加登 豊
社外 取締役	栗原 潤

■ 監査役

常勤監査役	西村 勝義
常勤監査役	手塚 道郎
社外監査役	間石 成人
社外監査役	荒木 靖夫

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

■ 株式数

- 発行可能株式総数 300,000,000株
- 発行済株式の総数 117,847,500株
(自己株式11,820,590株を含む)

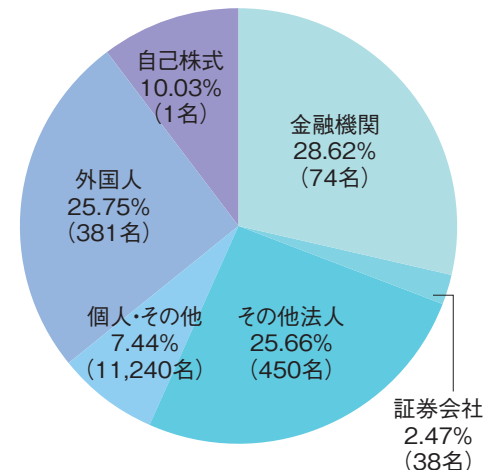
■ 株主数 12,184名

■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,488	6.11
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	5,424	5.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,413	5.10
明治安田生命保険相互会社	3,718	3.50
株式会社 鶴鳴荘	3,298	3.11
公益財団法人 小野奨学会	3,285	3.09
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	2,483	2.34
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,978	1.86
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,728	1.62
日清食品ホールディングス株式会社	1,628	1.53

- (注) 1. 当社は、自己株式 11,820 千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式 (11,820 千株) を控除して算出しています。

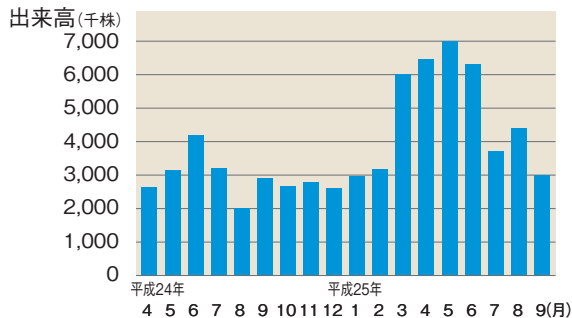
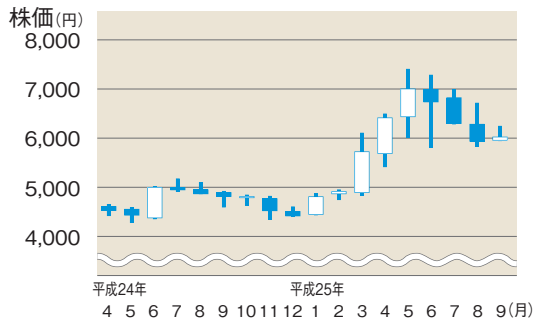
■ 所有者別の株式分布状況



(注) 比率は、小数点第3位以下を切り捨てているため、各項目の比率を加算しても100%になりません。

■ 株価および株式売買高の推移

(平成25年7月15日以前:大阪証券取引所、7月16日以降:東京証券取引所)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス http://www.ono.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所（証券コード4528）
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
各種お問合せ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店

-
- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
 - 未払配当金のお支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページアドレス

<http://www.ono.co.jp/>